

日本の食卓におけるお盆と皿数に関する研究

田崎 ほなみ

[指導教員：武庫川女子大学准教授 三宅 正弘]

キーワード：日本の食卓、お盆、皿数、孤食、共食

1. はじめに

西洋化によって、私たちの食卓には多彩な料理だけでなく、それを盛りつけるお皿も多様なものが並ぶようになっている。そのなかで見られる多国籍化の他方で、私が興味をもったのは、カフェでお盆が使われていることだった（本研究においてお盆を使うということは、お盆の上にお皿をならべて食事をしている状態を指す）。カフェという店舗形態は、名称が外国語であることから、外国のイメージを借りたような店舗も少なくない。

しかし一方で、お盆とは我が国の伝統的なスタイルといえよう。なぜ、カフェという空間において、日本の伝統的なスタイルが採用されるのであろうか。また、私の家庭において、普段の食事の際によくお盆を使用していることから、私にとってお盆とは身近な物でもある。本研究の目的の一つは、現代の私たちの生活のなかで、お盆がどのように使われているのかを明らかにすることである。

同時に、私は、そのお盆のなかで、小皿などの皿数についても疑問をもった。お盆と皿数とは、決して無関係ではないのではないだろうか。またこの皿数についても、使用数が多いということは、西洋料理に対してわが国の食卓の特徴でもある。すなわち、日本の食卓が多国籍化されていくなかで、その他方で日本の伝統的な形式が同時に展開されているのではないだろうか。

家庭の配膳を扱う既存研究としては赤澤梨央の「現代の家庭における食事に関する研究—食事時間と食事の配膳—」¹⁾があるが、お盆と小皿に着目した研究は少ない。本論では、お盆と同時に皿数について考察をすすめていく。また、調査を通じて孤食や個人といった「個」と、共食や共有といった「共」の二つの視点で考察を進める。

2. 研究方法

お盆の使われ方と皿数についての実態を明らかにするために、本論文では「外食」と「内食」との双方について調査を行った。外食においてはカフェを対象に、フィールドサーヴェイを行い、お盆の使用および皿数に関する調査を行った。内食においては、本学の学生と、調査家庭に対してお盆の使用および使用皿数に関する実態調査を行った。

3. 外食におけるお盆と皿数に関する実態

3-1 カフェにおけるお盆に関する調査

カフェにおいてフィールドサーヴェイを行いお盆の使用に関する調査を行った（表1）。

表1 店舗における調査概要

調査地域	「神戸ハーバーランドumie・mosaic」と、「乙仲通り」の2地域。
調査対象店舗条件	次の3点を満たす店舗を調査対象店舗とした。①それぞれの地域にて配布されているパンフレットにおいて「カフェ」に分類されている、またはNTT西日本発行の2017年および2018年の電話調査に記載されている、またはメイツ出版株式会社から2018年3月に発行された『神戸カフェ日和』すてきCAFE散歩に記載されている店舗。②ランチメニューを提供している店舗。③セルフサービスではない店舗。
調査概要（お盆）	上記の3点を満たす店舗においてフィールドサーヴェイを行い、外から店内が見え、お盆の使用や皿数が確認できる店舗にて調査を実施した。実際に食事をしたことがある店舗に関しては外から見なくても調査を実施したこととした。調査は、乙仲通りにおいて2018年6月28日に、umie・mosaicにおいて2018年6月29日に行った。
調査概要（皿数）	お盆調査を行った後、お盆と皿数の関係について明らかにするため、お盆の使用が確認できた店舗においてフィールドサーヴェイを行った。調査は2018年8月31日に行った。なお、乙仲通りでお盆の使用が確認できた店舗は外から店内が見えず、実際に食事をした店舗であったため、料理の写真から分析を行った。

調査の結果、それぞれの地域で2店舗がお盆を使用しており、合計4店舗がお盆を使用していた（表2）。お盆を使用していた店舗は皿数が多く、使用していない店舗はコース料理を提供する、皿数が少ないという特徴がみられた。よって皿数が増加するほどお盆を使用する傾向があるのではないかと。また、お盆を使用して食事をする際に誰かとお盆を共有するというのではなく、個人に向けて提供されていた。

表2 店舗におけるお盆調査の結果

調査対象地域	調査日	調査対象店舗数	調査実施店舗数	お盆使用店舗数
umie・mosaic	2018.6.28	8	7	2
乙仲通り	2018.6.29 ～11.26	14	7	2

表3 店舗における皿数調査の概要と結果

調査対象地域	調査日	店名	皿数
umie・mosaic	2018.8.31	ナトゥーラ・ナトゥーラumie店	5～6
		ココノハ	1～3
乙仲通り	2018.6.29	ひとところかふま	5
	2018.11.28	ハイスダイニングルーム	5～6

3-2 外食における皿数に関する調査

カフェにおいてフィールドサーヴェイを行い、使用している皿数について調査を行った。対象店舗は3-1の調査にてお盆が使用されていた店舗である（表1）。乙仲通りにおいてはお盆を使用していた店舗が外から店内が見えず食事をした店舗であったため、食事した際に撮影した写真から分析を行った。

調査の結果、お盆を使用していた4店舗中3店舗が5皿以上使用していた（表3）。ココノハは、食事はパスタを中心に提供しており皿数は少なく、他の3店舗は様々なおかずをそれぞれのお皿に盛り付けて食事を提供しており、おかずの多さが皿数の増加につながったのではないだろうか。それぞれの店舗において、どのような食事をどのような形式で提供するかというコンセプトがあり、お盆の使用や皿数はそのコンセプトによって決定されるのではないだろうか。また、お皿を誰かと共有するのではなく、個人で使用し、それらを一つのお盆の上のせて食事を提供するという形式には、「個」というものが感じられるのではないだろうか。

4. 内食におけるお盆と皿数に関する実態

4-1 学生に対するお盆に関する調査

家庭で食事をする際のお盆の使用に関する実態調査を、2018年7月に本学の学生354名に対して行った（表4）。

調査の結果、お盆を使用している学生は全体の約14%で

あった。研究の視点に基づいて、一人暮らしの学生とそれ以外の学生とを区別して分析を行った。その結果一人暮らしの学生のお盆の使用率は約 23% で、一人暮らし以外の学生のお盆の使用率は約 12% となり、一人暮らしの学生の方がお盆の使用率が高いという結果が得られた。お盆を使用することは「個」と少なからず関係があるのではないだろうか。

表4 調査概要

調査期間	2018.7.10～7.27
調査人数	354人
調査日	第1回 2018.7.10 第2回 2018.7.11 第3回 2018.7.27
調査内容	本学の学生に対してお盆に関する実態調査を行った。 ①現在の居住形態について ②お盆の有無 ③お盆の使用頻度 ④お盆の使用理由(複数選択可) ⑤お盆に飾をのせる場所 ⑥ランチョンマットの使用の有無 ⑦お盆について一言
質問内容	

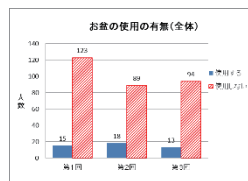


図1 全体調査結果

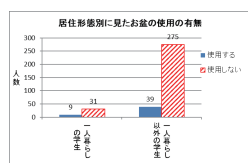


図2 居住形態別調査結果

4-2 学生に対する皿数に関する調査

家庭において食事する際に使用する皿数に関する実態調査を本学の学生に対し行った。自作した調査用紙を配布し、平日 20 回、土日 18 回の計 38 回の夕食のデータから分析と考察を行った(表5)。

表5 調査概要

調査期間	2018.10.17～11.6
調査人数	23人
調査内容	家庭での夜ご飯の際に使用する皿数の調査を行い、その結果から分析と考察を行った。調査用紙は2018年10月17日に配布し、同年の11月7日に回収した。調査を行うために、本学の学生に自作した調査用紙を家へ持ち帰ってもらい、平日に1回、土日に1回の計2回の家庭での夜ご飯に使用したお皿を、お皿の種類別に記録してもらった。その際に、共有して(大皿に盛る等)使用したのか、個人(ご飯茶碗や取り皿等)で使用したのか、区別して記録してもらった。
質問内容	①居住形態 ②記録を行った日付 ③食事開始時間 ④一緒に食事した人数 ⑤お皿の使用の有無 ⑥献立 ⑦お皿の種類別の記録

表6 皿数結果

データ数	使用形態	平均皿数
全体(38回)	個人皿(37回)	3.13
	共有皿(15回)	1.40
平日(20回)	個人皿(20回)	3.25
	共有皿(5回)	1.20
土日(18回)	個人皿(17回)	3.00
	共有皿(10回)	1.50

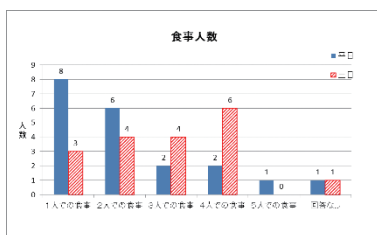


図3 平日と土日の食事人数

まず、共有皿について、38 回中 15 回の食事で使用されており、平日は 5 回、土日は 10 回と、土日の方が共有皿が多く使用されていた(表6)。さらに、食事人数に関して、平日は食事人数が少ない家庭が多いことに対して、土日は食事人数が比較的多かった(図3)。つまり、食事人数の多い土日は平日よりも共有皿の使用が増えるということが明らかになり、食事人数は、お皿の使用に少なからず影響を与えているのではないだろうか。

5. 家庭における食卓の実態

普段から食事の際にお盆を使用しているという家庭に協力を得て、食卓の実態調査を行った(表7)。これら进行分析、考察するとともに、調査期間外ではあるが 10 人という大勢で食事した際の記録も入手できたため普段の食事との比較も行った。

表7 調査概要

調査期間	2018.11.1～2018.11.25
調査内容	家庭での夜ご飯の写真を送ってもらう。 ・祖父、祖母、娘、孫2人の5人で暮らしている。
調査家庭について	・娘と孫2人は働いている。 ・夕飯は基本祖母がつくる。 ・祖父と祖母は共に食事をとり、後の3人は帰宅して各自食事をとる。 ・普段からお盆を使用している。

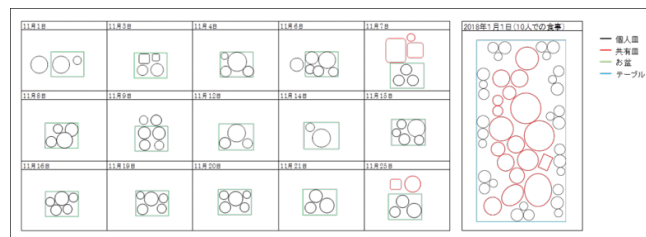


図4 調査結果

調査の結果(図4)、まず普段の食事について、毎回お盆を使用しており、1回の食事に個人皿を平均4皿使用し、共有皿を使用したのは15回中2回のみであった。一方10人で食事をした際にお盆は使用されず、個人皿は各3皿使用し、共有皿は18皿使用されていた。10人で食事をする際にお盆が使用されなくなったのは、食事人数が増えたこととお盆の数が足りず、机にのせる十分な場所がなかったことが要因と考える。共有皿が増えた要因は、品数や料理の量が多く、人数も多いため個人に取り分けるのは効率的ではないことが要因と考える。このように、普段お盆を使用する家庭でも、食事人数が増加することでお盆が使用されず、共有皿の使用が増えるという実態が見えた。

6. まとめ

本研究における調査から、お盆の使用や皿数というのは少なからず「個」や「共」と関係があるのではないかと考えられる。また、外食と内食とを比較してみると、外食ではお盆の使用やどれだけの皿を使用するかということはあらかじめ決定されていると考えられるが、内食ではその日の献立や食事人数に影響されて変化するのではないだろうか。この比較に関して研究の視点に基づいた考察を行うことは今後の課題とする。お盆の使用や皿の数について、さらに詳しく明らかにすることも今後の課題とする。

参考文献および参考資料

- 1) 赤澤梨央:現代の家庭における食事に関する研究-食事時間と食卓の配膳-, 2016
- 2) umie GOURMET GUIDE, 2018年6月11日現在
- 3) 2017-2018 神戸乙仲通り MAP, 2017年10月1日現在